

「主体的・対話的で深い学び」を支える教師の実践力を培うために：

省察的実践の長期漸成サイクルをコアとする養成研修カリキュラムの実現と

学校・教育委員会・地域・大学「専門職学習コミュニティ・DX 多重協働ネットワーク」の構築

1. 求められる学びの変容と教師の力量形成

求められる力(コンピテンス)とそれを培う学び： 変化が加速化し、前例のない事態の頻発と輻輳に揺れる世界において、状況を探り展開の可能性を見だし、協働して社会を発展させていく主体としての力を培う学びの実現が求められている。OECD の Education2030 では「変革を起こす力(コンピテンシー)」として「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマを克服する力」「責任ある行動をとる力」の三つを挙げ、そうした力は自ら見通しを立て(Anticipation)、実践し(Action)、それを省察して(Reflection)再構成していく「連続した過程を通じて学習される」とし、そうした省察的実践の連続的サイクルを実現するためのカリキュラム・学習生態系の改革(eco-systemic change)の必要性を提起している。「主体的・対話的で深い学び」を目指す新学習指導要領、ICT化とDXの展開を踏まえ「個別最適な学びと協働的な学びの実現」を目指す「令和の日本型学校教育」への定位は、世界的学習改革と課題意識・方向性を共有している。

「主体的・対話的で深い学び」を支える新しい教師の実践的力： 「主体的・対話的で深い学び」・省察的な協働探究プロジェクトの連続的展開を支えるために、教師には①公教育の理念②教育内容方法③成長発達に関わる理解に加え、以下のような新たな複合的な実践的力が求められる。

- 児童生徒の協働探究の展開を促しコーディネートする力 = **ファシリテーション・コーディネーションの力**
- 個人・グループの探究プロセスを跡づけ、課題を析出し発展の可能性を探る力 = **「見とり」の力**
- 協働探究の展開をデザインし、発展に即して再構成する力 = **デザインする力**
- 長期的な探究発展の基盤条件を協働して構成するマネジメント力 = **マネジメントする力**
- 上記の4つの実践力と密接に関わり ICT とそのネットワークを活かす協働の実践力 = **DX 推進の協働力**

教師の力量形成を支える養成・研修への展望： 学びを支える新たな教師の実践力は、これまでの伝統的な教授方法で伝達することはできない。それにふさわしい新たなアプローチ、カリキュラムデザインとそのマネジメント、および、それを実効あるものとして稼働させる組織と構成が不可欠となる。

- 養成・研修における学修そのものが**教師自身にとっての「主体的・対話的で深い学び」と、協働探究プロジェクトサイクルの実体験**となるように構成する。
- 児童生徒の学習活動の発展に**直接関わる実践を基盤**とし、それを深め発展させるための**研究を連動**させる。
- **多様な学習活動の事例を検討**し比較検証し、発展的な学習過程とデザインを探る実践研究を進める。
- 自身の学習過程を省察し、**学校・大学・教育委員会を結んで、不断に発展させる協働学習サイクル**を実現する。

2. カリキュラム改革・ネットワーク組織および制度改善のための視点・アプローチの概要

教師の実践的コンピテンスを培う養成研修カリキュラムのデザイン・プロセス・組織の基本的構成： 教師の実践的コンピテンスを培うカリキュラムにおいては、実際の実践・省察・再構成の長期的発展サイクルを基軸とし、その発展を支える主要構成(事例研究・教育研究・教科内容研究)を実践サイクルの展開と必要に即して配置構成する有機的なマネジメントが必要となる。

- **教職大学院における学校拠点長期実践プロジェクト研究群をコアとするカリキュラム**
- **学部における省察的実践長期漸成サイクルコアプロジェクト群**
- **教員研修における実践の省察・交流の組織化と学校・教育委員会・地域・大学を結ぶネットワーク・フォーラム**

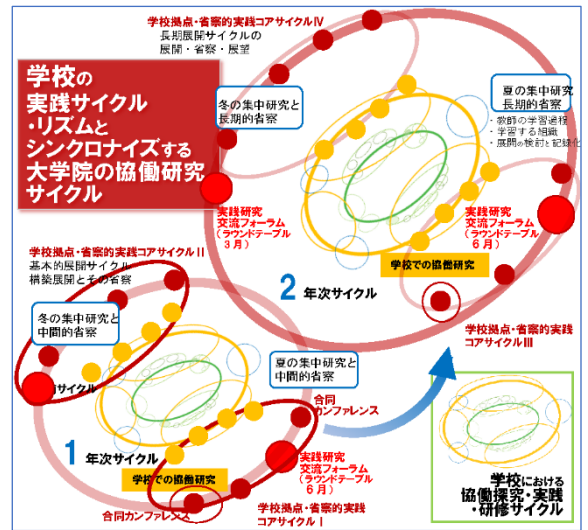
カリキュラム改革を支えるネットワークと組織形成への基盤プロジェクトを編成・展開する

学習の基本的モードの転換・カリキュラム改革は、先進的な取り組みのプロセスと成果を相互に結び、より広く共有していくネットワークに支えられることなしには展開しえない。理念構想や帰結の伝達に止まりがちだったこれまでの共有システムを超え、ICT・DX の可能性を活かした協働探究コミュニティの協働サイクルとしての新たなネットワーク・改革支援協働組織を実現していくことが求められる。

- 学校・教育委員会・地域・大学を結ぶ実践ネットワークを学校拠点の大学院と研修サイクルを活かし支援する。
- 地域を超えた改革のための大学間連携を通して広域ネットワークを実現する。
- 地域・広域のネットワークを教育情報ネットワークと年二回の実践研究フォーラム(ラウンドテーブル)で結ぶ。
- フラッグシップ大学・教職員支援機構・フラッグシップ委員会の協力により上記の取り組みを支えつつ、そのプロセスと成果を教師の養成研修の改革に活かす体制作りへと進める。

A. 教職大学院：学校拠点協働実践研究サイクル：直面する課題への校内の協働実践・研修の展開を支える

「主体的・対話的で深い学び」の実現、GIGA スクール、障害のある児童生徒も含む多様なニーズを持つ子供たちの学習支援、少子化に伴う学校統合等の現実的課題への対処のために、学校における教師の協働の取り組みの展開とそれを支える研修を含む支援の組織化が求められている。しかし多くの場合、学校での取組は①課題をめぐる情報や事例の検討②取組の効果的編成と展開をめぐる知見や経験、多様なステークホルダーとの関係づくり③取組の評価をめぐる配備等、取組展開に必要な多様な情報とそのため学習の支えなしに進められている。課題検討から展開・評価に至る一連のサイクルに、関連する多様な専門家・研究者が協働して伴走し、展開に即して効果的な学習・研究と事例交流を組織していくことが出来るなら、学校での実践がそれを支える効果的な研修・研究基盤を持つこととなり、さらには取組の実地の経験・省察と相互的・協働的な事例研究を通して実践力[学校での協働の実践と研究のコーディネーション・マネジメントする力]を培うことが可能となる。従来の大学院では、学校から切り離された場で、大学の時程・年サイクルに従って講義・演習が進められてきたが、学校拠点実践研究サイクルでは大学教員が学校に出向き取組の展開と研究協議に参画するとともに、各学校の取組の中心的教員である院生が、土曜・休業時に集中的に大学院に集い、課題および取組の展開・コーディネーション・マネジメントをめぐる協働研究セッションを重ね、学校での取組を発展させるサイクルを実現する。実践の長期的な積み重ねに即し実践研究も複数年発展的に重ね、修了後も公開研究集会を通し継続的な交流に繋げる。



従来の大学院では、学校から切り離された場で、大学の時程・年サイクルに従って講義・演習が進められてきたが、学校拠点実践研究サイクルでは大学教員が学校に出向き取組の展開と研究協議に参画するとともに、各学校の取組の中心的教員である院生が、土曜・休業時に集中的に大学院に集い、課題および取組の展開・コーディネーション・マネジメントをめぐる協働研究セッションを重ね、学校での取組を発展させるサイクルを実現する。実践の長期的な積み重ねに即し実践研究も複数年発展的に重ね、修了後も公開研究集会を通し継続的な交流に繋げる。

B. 学部：協働探究の多重サイクルを軸に学びを支援する力を培う：省察の実践長期漸成コアプロジェクト群

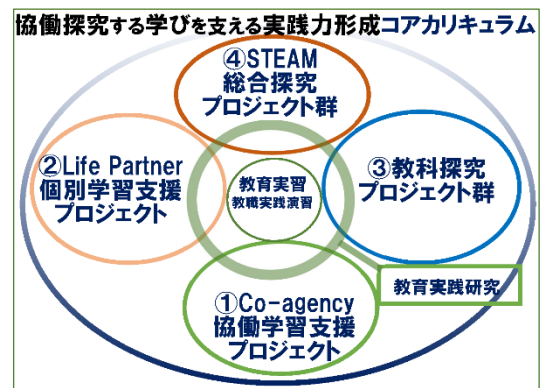
学部教職課程では、学生自身が主体的協働的な探究を深めるとともに、基礎研究に学びつつ、実際に児童生徒の協働探究に関わる実践と省察を重ね、学びを支える実践力を培うことが求められる。従来の小単位の科目ごとに細分化されたコンパートメント型の編成を超えた、学生たち自身が子供たちとの協働探究を持続的・有機的に発展させる教育課程とそのマネジメントが求められる。本学の実践的教職課程の蓄積を活かし、より持続的なプロジェクト科目群とそれらを有機的に結ぶカリキュラム複合を実現する。

①Co-agency 協働学習支援プロジェクト：子どもたちの協働探究活動支援の実践省察研究サイクル 福井大学では、隔週土曜日、地域の小・中学生が大学に集い大学生の支援で関心に即して年間の探究活動を展開する取組が重ねられている。大学生が子どもたちの長期プロジェクトを協働して支える実践経験とそこでの実践的・現実的課題に関わるカンファレンス、学習理論・研究に関わる実践研究を連動して進める実践的カリキュラムの開発を進める。

②Life Partner：特別なニーズを持つ子どもたちの学習成長を基盤とする実践省察研究サイクル 福井市をはじめとする複数の市と福井大学の協定に基づき、学校に在籍する特別なニーズを持つ子どもたちの学習を長期にわたり大学生が支援していく取り組み(ライフ・パートナー)を基盤とし、視点・方法・アプローチについての実践カンファレンスと理論的学習を連動させ、個別最適化された学びを長期にわたり支える実践的力の基礎を培うカリキュラム開発を実践的に進める。

③STEAM・総合学習プロジェクトサイクルと関連する基礎科目群 分野を横断した総合的で創造的な探究を実現するための実践研究・カリキュラム開発プロジェクトとそのため基礎学習を合わせたカリキュラム群を構成し、基礎となる研究を進めつつ、STEAM・総合学習プロジェクトサイクルの展開を目指す。

④Subject-based Inquiry 教科における探究的学習を構想・実践するプロジェクトと基礎科目群 それぞれの教科においても、固有の探求を通じたコンピテンスの形成が求められている。この科目群では、基礎となる研究を組織しつつ、探究的な授業開発・カリキュラム開発を展開し、学校での実践に繋げていくための長期サイクルを実現する養成カリキュラム開発に取り組む。



③STEAM・総合学習プロジェクトサイクルと関連する基礎科目群 分野を横断した総合的で創造的な探究を実現するための実践研究・カリキュラム開発プロジェクトとそのため基礎学習を合わせたカリキュラム群を構成し、基礎となる研究を進めつつ、STEAM・総合学習プロジェクトサイクルの展開を目指す。

④Subject-based Inquiry 教科における探究的学習を構想・実践するプロジェクトと基礎科目群 それぞれの教科においても、固有の探求を通じたコンピテンスの形成が求められている。この科目群では、基礎となる研究を組織しつつ、探究的な授業開発・カリキュラム開発を展開し、学校での実践に繋げていくための長期サイクルを実現する養成カリキュラム開発に取り組む。

カリキュラムマネジメント高度化サイクルと担当者の協働力量形成(FD)サイクルの構築とそのプロセス

実践力形成のための長期的なプロジェクトサイクルを支え、その展開を評価し発展させていくためには、担当する複数の分野の大学教員の協働組織と、発展を支えるためのコーディネーション、および複数のプロジェ

クト間の連携も含むカリキュラムマネジメントが求められる。そうした協働の実践支援の力を、担当する大学教員が、実際の取り組みとその省察検証を通して、また他のプロジェクトや全国的世界的な教員養成改革の事例にも学びながら培っていくサイクルを確保・保障していくことが必要となる。それは、子どもたちの探究力を培うサイクル・学校の教師の実践力を培うサイクルと基本的に同様のサイクルとなるが、この基盤となる大学教員の協働的な力量形成(FD)サイクルを意図的に高度化していくことなしには、大学におけるカリキュラム改革は実際に実践する協働主体を欠いた外形的な図に止まらざるを得ない。これまで焦点化されることが少なかったこの根本的力量形成サイクルの実現を改革プランに組み込むことが必須となる。

3. 広がりを実効性を両立する展開のための養成研修改革の多重ネットワーク

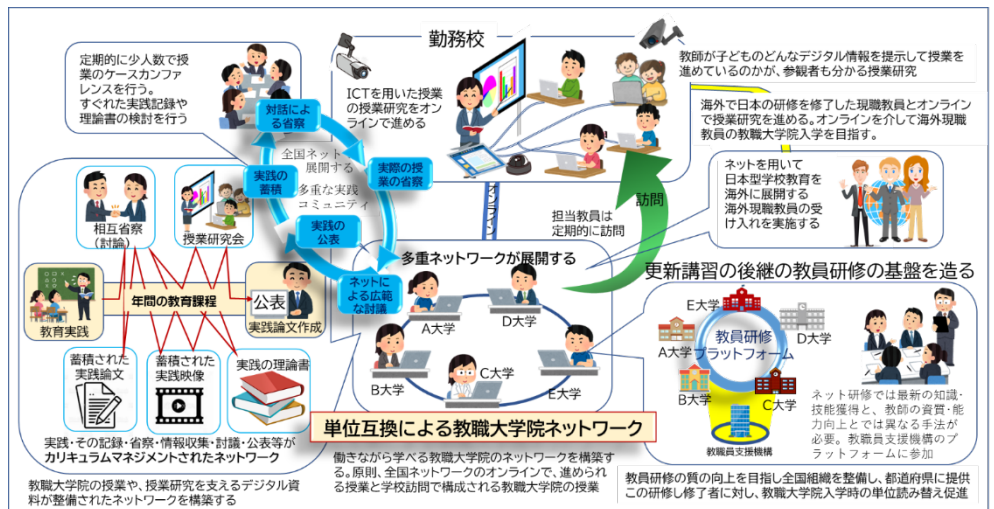
教職大学院における協働カリキュラム改革のための単位互換ネットワークの構築：学校の中心な担い手教員が学校を離れることなく学ぶことの出来る教職大学院の実現 現職教員が取り組んでいる自校での改革プロジェクトをめぐる実践研究を核に据えた学校拠点カリキュラムと時間空間自由なオンデマンド型授業のコラボレーションを、大学間連携を超えて実現する。

現職研修における実践力形成サイクル実現とそのための地域内・地域間・全国ネットワーク

教員免許状更新制廃止という教員研修制度の大きな転換点にあって、教師の働き方改革と両立しつつ、同時に教育改革のための実践力形成という課題に応える研修の高度化を進めていくためには、研修の内容・編成・組織の飛躍的な高度化が不可欠となる。ICTの展開にともなうオンデマンド型の個人研修は時間の節約と自由度を高める上で効果的であるが、基本的に伝達型の学習モードの枠内に止まり、児童生徒の協働探究を支える教師の実践力形成のためには、実践・省察サイクルの持続と高度化を支える研修が不可欠となる。校内において実際の授業展開を教員相互に共有し発展させていくサイクルとそこでの展開を、学校を超えて交流し高度化させていくサイクルとを、これまでの校内研修・校外研修の時間・枠組みを活かして有機的にマネジメントすることができるなら、働き方改革と実践力形成の両立という困難な課題への具体的なアプローチとなりうる。以下地域レベル・広域全国レベル・世界レベルのそれぞれの層での現職教員の実践力形成サイクル・ネットワークに関わる三つの取り組みを手がかりとする。

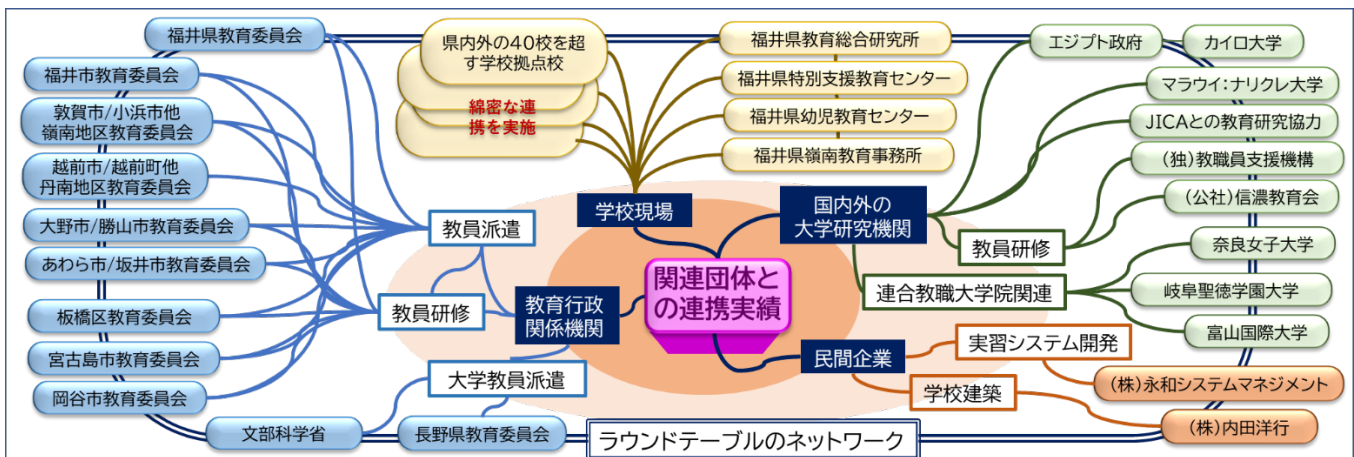
教員免許状更新制廃止という教員研修制度の大きな転換点にあって、教師の働き方改革と両立しつつ、同時に教育改革のための実践力形成という課題に応える研修の高度化を進めていくためには、研修の内容・編成・組織の飛躍的な高度化が不可欠となる。ICTの展開にともなうオンデマンド型の個人研修は時間の節約と自由度を高める上で効果的であるが、基本的に伝達型の学習モードの枠内に止まり、児童生徒の協働探究を支える教師の実践力形成のためには、実践・省察サイクルの持続と高度化を支える研修が不可欠となる。校内において実際の授業展開を教員相互に共有し発展させていくサイクルとそこでの展開を、学校を超えて交流し高度化させていくサイクルとを、これまでの校内研修・校外研修の時間・枠組みを活かして有機的にマネジメントすることができるなら、働き方改革と実践力形成の両立という困難な課題への具体的なアプローチとなりうる。以下地域レベル・広域全国レベル・世界レベルのそれぞれの層での現職教員の実践力形成サイクル・ネットワークに関わる三つの取り組みを手がかりとする。

a. 地域プロジェクト：福井県・板橋区（東京都）・宮古島市（沖縄県）： 福井県においては教育委員会・県教育総合研究所と福井大学の協働により、10年間の取り組みの省察・展望を深め、世代を超えて交流するカンファレンスを中心とする教員免許状更新講習（3日間）を進めているが、学校拠点の教職大学院拠点校・連携校のネットワークを活かし校内研修と集合型カンファレンスをオンライン会議のシステムやデジタルデータベースも活かして進め、日常的に実践・省察サイクルを通じた力量形成を支える研修への再編成を進める。板橋区・宮古島市と福井大学は教職大学院と教員研修をめぐる協力のための協定を結び、学校改革と校内研



福井県においては教育委員会・県教育総合研究所と福井大学の協働により、10年間の取り組みの省察・展望を深め、世代を超えて交流するカンファレンスを中心とする教員免許状更新講習（3日間）を進めているが、学校拠点の教職大学院拠点校・連携校のネットワークを活かし校内研修と集合型カンファレンスをオンライン会議のシステムやデジタルデータベースも活かして進め、日常的に実践・省察サイクルを通じた力量形成を支える研修への再編成を進める。

板橋区・宮古島市と福井大学は教職大学院と教員研修をめぐる協力のための協定を結び、学校改革と校内研



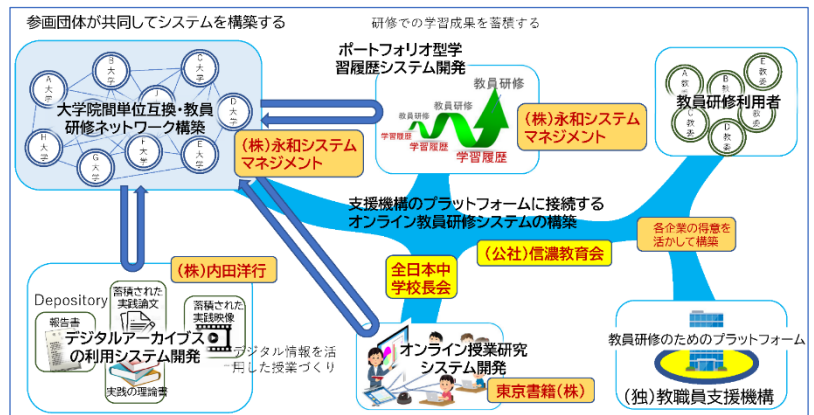
修の中心となる教員の教職大学院での学修・研究と、学校・地域における教員研修の高度化を連動して進めており、都市部および諸島地域において、オンラインを活かし校内研修と集合研修を学校・教育委員会・大学の三者の協働によって高度化していくためのモデルを実現する。

b. 広域プロジェクト 教職員支援機構との連携によって広域ネットワークを支える： 現職教員のための教職大学院プログラムに関わる全国的な連携と研修に関わる地域プロジェクトの展開を結び、現職教員の実践力形成のための研修ネットワークを実現していくために、教職員支援機構と教職大学院ネットワーク・地域プロジェクトを結び、学校拠点の実践力形成を地域において教育委員会・教職大学院が協働して支え、さらにそれを全国的に支援機構とフラッグシップ大学のネットワークが支える構成を実現していくことが求められる。オンデマンドによる研修とともに、地域における取り組みを省察・交流しつつ、教育改革の展開状況について協働研究を深めていく全国規模の協働研修サイクルを展開していく。

c. 世界ネットワーク OECD、JICA、世界授業学会との協力とマラウイ・エジプト等の教員研修の展開

学習観の転換とそれを支える教師の力量形成という課題は世界共通であり、世界レベルでのその取り組みの開発・共有が求められている。福井大学では OECD、JICA、世界授業学会等の機関と結び、世界的交流と研修の取り組みを重ねてきているがマラウイ・エジプト・タイをはじめ各国との協働によって、国内での取り組みと世界交流を結び、教師の省察的実践の力量形成の世界モデルの実現をめざす。

ネットワークを支えるメタコミュニティと ICT 活用 DX の多重構造 全国規模・国際規模のネットワークでは、ICT 活用と DX がより大きな必要性・有効性・重要性を帯びる。協働探究の展開サイクルに即した情報コミュニケーションネットワーク・デジタル化されたまた翻訳された実践記録の集積の共有、著作権管理等情報公開に関する手続きの組織化等も含め協働探究の長期発展支援の情報組織が求められる。



4. 取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献

校内・地域・全国を結ぶ教師の実践力形成サイクル複合の実現を通じた教職課程改革への展望

「令和の日本型教育」の実現には、学習者中心の学びを支える教師の新たな実践力形成が必要となるが、それは教師にとっても自身の学習経験・教職経験を超える挑戦となり、教師を支える学校内外の研修体制の組織化が不可欠となる。本学連合教職大学院における学校拠点実践研究サイクルは、現職院生の学校での授業改革協働実践を基軸としているが、それは同時に校内の実践・研修コーディネーターとしての実践力形成を重要な目的として含んでいる。**[地域サイクル]** 実践・研修の中核コーディネーターとしての力量形成を教職大学院において進め、さらに福井県や板橋区・宮古島市の例のように、大学院と県・市協働の集合研修によりさらに広く校内研修コーディネーター養成サイクルを組織化することにより、地域における学校拠点の教師の実践力形成を面として支えるプラットフォーム実現が可能となる。校内研修とそのコーディネーターの集合研修サイクル、さらに多くの教員が参加する年 2 回の学校での改革実践交流のフォーラム（実践研究ラウンドテーブル）および ICT ネットワークを組み合わせることにより、発展的な実践事例と最新の改革動向をリアルタイムで共有し恒常的に発展させていくサイクルが実現する。こうしたサイクルの基軸として教職大学院の学校拠点実践研究サイクルが機能し、本年度新設された全学組織である総合教職開発本部[専任 23 名・大学院学部所属の協働教員 16 名]がその運営を本務として担っていく。**[全国サイクル]** こうした地域における協働研修サイクルは全国レベルのネットワークによって支えられることにより、より大きな広がり発展を望むことができる。各地域における集合研修の企画運営の中心となる担当者および地域の拠点学校におけるコーディネーターが、教師の実践力形成を支える研修のデザイン・組織のコーディネーション・マネジメントについて学び、互いの取組を共有し、自らの取組を省察し展望する場を全国レベルの中央研修として組織することにより、先端的な実践を全国規模で常に共有し、同時に世界規模の実践・研究を視野に入れつつ、コーディネーターとしての力を継続的に発展させ、地域のサイクル・校内サイクルを恒常的に発展させていくサイクルが可能となる。**[教職課程改革への展望]** 全国規模の教職課程改革は、外からの提起や個々の大学の個別努力だけでは進まない。その担い手の力量形成につながる協働実践と交流組織が不可欠となる。本構想におけるネットワークはそうした教職課程改革の実効性ある基盤づくりに直接つながるものである。